〔千葉医会誌 47, 170, 1971〕

〔編 集 後 記〕

◇ はなばなしいこと，それ自体は悪いことではありません。問題はむしろそれにとらわれる目にありましょう。陽に光り輝く天守閣は，つき固められた土台，つみ上げられた礎石，組み立てられた骨組によって，はじめてはれがましく，安泰であるはずです。医学でももちろん，地道な基礎的研究があって，はじめて脚光を浴びる業績が生まれるものと思います。どちらが価値があるというものではありますまい。横川先生の“先端と底辺”はご自身の専門に託して，研究者の目のありかたを説かれております。

◇ 堀越先生ほかの総説は，堀越先生の開講5週年に当り，この間に手術が行なわれた125例の症例について総括，検討されたもので，この方面の貴重な参考となるとともに，将来へのビジョンが述べられてあります。降矢先生は永らく“臨床のための検査”を受け持たれていましたが，今回臨床検査室の現状と合理化についてまとめていただきました。要求の増大に対して，現状がいかに乏しいかがわかりますし，それでも行なわなければならないところに，なみなみならぬ苦心のあることがうかがえます。今年度より中央検査科に教授が置かれることになり，目下その選考中ですが，よい教授を得，中検がいよいよ充実されることを祈ってやみません。

◇ 原著は4篇です。内藤，塩沢，余3氏のものはいずれも腫瘍に関連したものであり，百瀬氏のものは大気汚染につながるものです。文部省の科学研究費でも，特別研究や特定研究の項目になっているように，これらの研究が多いことは時代の要請が強いことを物語っています。いずれも決してはなばなしいとは言えないが，地道な努力がなされていることに好感がもてます。

◇ 桜井先生の“ヒポクラテスと破傷風”は，破傷風の研究と撲滅に全身全霊を打ち込んだ人の余話として，非常に興味のあるものです。いつだったか仁王様の足指のそり返っているのを見て，梅毒（？）の時代考証をされた方がありましたが，きびしい研究の余話として一陣の涼風を得た気がします。小林先生の検査は懇切な解説がいよいよ軌道に乗ってきました。

◇ 7員環化合物には実にいろいろな作用をもったグループが現われてきますが，benzodiazepine 系の薬物は，その中でもトランキライザーとの関連において頭角を現わしてきたものです。そのうち比較的新しいものとしてメダゼパムが村山先生によって紹介されています。

◇ 学会記事としては佐藤外科の例会ひとつですが52題に及ぶ出題がなされています。“さえら”は小林（健）氏による岡本教授の紹介，“くるつふあっせん”は偽伝達物質について（萩原）です。これらについてはどんどんご投稿下さるようお願いします。

◇ 5月22日に第48回千葉医学会総会が医学部記念講堂で開かれました。その詳細は米沢総務幹事がまとめられた「千葉医学会年報」でご覧いただきますが，編集に関したことだけいえば，昨年度は9号7回の発刊が行なわれ，やっと定期刊行に近いまで，こぎつけることができたこと，投稿の手引補遺①，②ができたこと，編集委員の一部改選（既報）が行なわれたことなどで，その他こまかい所に気を配る余裕がやっとできたところです。

◇ 桑田集会幹事のご努力で今秋の学術大会の予定がきまりました。表紙裏に掲げましたのでご一覧の上，今からご予定願います。

（萩原弥四郎）